社会ネットワークがバリアフリー整備の満足度に与える影響に関する研究

名古屋工業大学大学院　学生会員　日岡　崇
名古屋工業大学大学院　正会員　秀島　栄三

１．はじめに

ソーシャル･キャピタル論[1)]は、効率優先の風潮、個人主義の台頭などにより社会的厚生がかえって低下しているのではないかという疑問を投げかけている。ソーシャル・キャピタルとは、社会の効率性を高めることのできる「信頼」「規範」「社会ネットワーク」（人、組織間の繋がり）といった社会組織の特徴を指す。この「社会ネットワーク」は、社会基盤整備の不十分を補っている可能性がある。また、強い「社会ネットワーク」を持つ人は、社会基盤整備の充足度に対しセンシティブである可能性がある。本研究では、ある地区のバリアフリー整備を対象として調査・分析を行い、上記の仮説を検証する。

２．本研究の考え方

個人は、自分が地域社会全般に対する信頼と健全な規範、また企業を含めたコミュニティーの（社会）ネットワークの中に組み込まれていることを認識したとき、安心感と一体感をもち、協調的な行動をとりやすい。また、一人が協調的な行動をとれば、隣人も協調的行動をとるという好循環が存在する。逆に、自分が孤立していると感じるだけで、その人は他人と協調する意欲を失う。社会全般に対する信頼・規範の欠如、会社や地域の中での（社会）ネットワークの不足は、協調的な行動を阻害する。[2)] すなわち、地域でみられる人々同士の支え合いは「社会ネットワーク」の強さに依っている面がある。一方、道路、港湾などの社会基盤もまた地域の人々の生活、生産活動を支えている。以上により、次のような二つの仮説が考えられる。社会基盤整備が不足している地域や状況では社会ネットワークがそれを補っている。何らかの社会ネットワークに属している人は、社会基盤整備の整備水準も同時に強く認識している。

本研究ではこれらの仮説についてバリアフリー整備を例にして検証することとする。「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関わる法律」の下で諸々のバリアフリー施策が実行されているが整備財源の制約が厳しいことなどから随所において実施されているわけではない。バリアフリー整備が不十分であっても、高齢者や障害者の身内、たまたま近くにいる人が手助けをする場面はしばしば見受けられる。すなわち、高齢者や障害者の交通の実現機会の増加は、バリアフリー整備の整備効果によるものだけではないということになる。これら自発的な介助や支援の行動の源泉は何かということを考えてみれば、先に述べた「社会ネットワーク」であることが考えられる。

３．調査と分析の概要

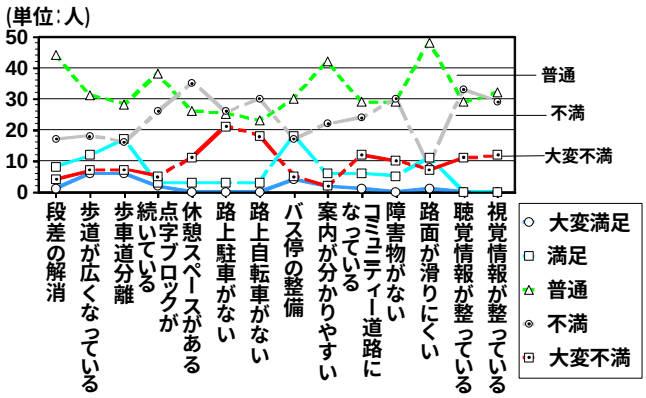
本章では、名古屋市西区那古野地区を対象としてアンケート調査を行い、何らかの社会ネットワークに属している人と、属していない人の意識・行動を比較することにより、社会ネットワークが住民のバリアフリー整備に対する評価に与える影響を明らかにする。那古野地区は、名古屋の中心市街地にあり、歴史的な町並みを有している。その一方で名古屋駅から近く利便性が良いため、マンション建設が進み、若い世帯もいる。若い世帯から高齢者世帯まで幅広く社会ネットワークについて調査できると考えた。

文献３）を参考にしながら、主な調査項目を以下の通りにした。

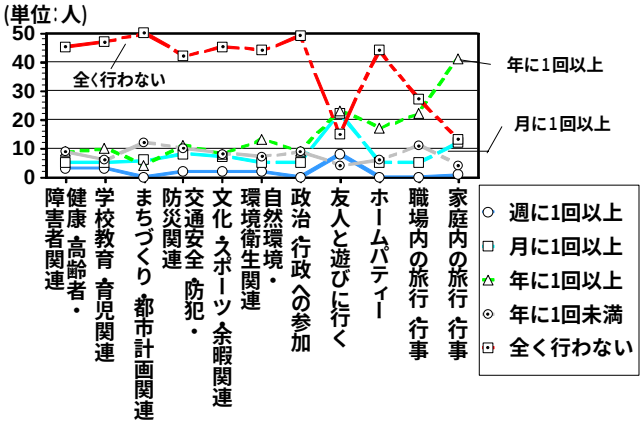
１）設問１から設問７では、記入者の属性について
２）設問８から設問１１では、バリアフリーに対しての関心やバリアフリー整備の満足度について
３）設問１２から設問１４では、社会ネットワークの参加頻度や意欲について
４）設問１５から設問２１では、地域との関わり合いについて

調査票を住宅、マンション、商店経営者に配布した。配布総数は 505 枚、有効回答票は 75 票、率にして約 15%である。（平成 18 年 12 月 1 日現在）。

図―１より、この地区ではバリアフリー整備の現状に対し、全体的に満足していないことがわかる。また、図―２より「友人と遊びに行く」「家庭内の旅行・行事」「職場内の旅行・行事」以外の社会活動はあまり行われていないことがわかる。



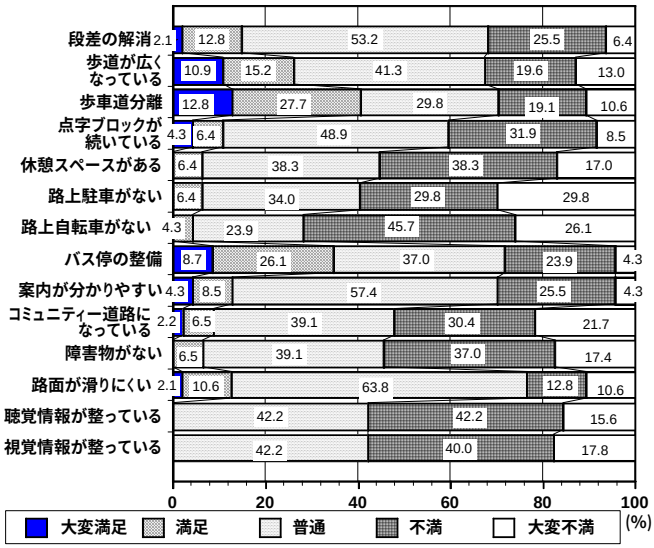
図―１　住民のバリアフリー整備に対する満足度



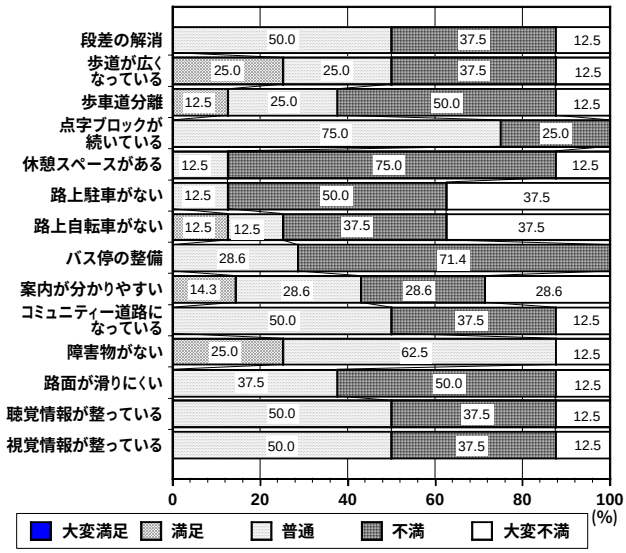
図―２　住民の社会活動の参加頻度

図―３、４は学校教育・育児関連の社会活動を「全く行っていない」「月に１回以上」の住民が感じているバリアフリー整備の満足度を表わしている。参加頻度によるバリアフリー整備の満足度の違いが見られる。「月に１回以上」の人々よりも「全く行わない」人々の方が満足度が高い、という傾向が見られた。他の社会活動についても同様な傾向が確認された。

「全く行わない」の住民は「大変満足」と回答している人がいるが、「月に１回以上」の住民は「大変満足」と回答している人は一人もいない。社会ネットワークに強く関わっている「月に１回以上」の参加頻度の住民は相対的にバリアフリー整備の状況に対して関心が高いと考えられ、また社会ネットワークに強く関わっている人は、そうでない人に比べて整備状況に対して低い評価を行っている。住民のバリアフリー整備の満足度の評価に対して、「社会ネットワーク」の強さが影響を与えていることが考えられる。



図―３　学校教育・育児関連「全く行わない」



図―４　学校教育・育児関連「月に１回以上」

４．おわりに

本稿では、住民の社会基盤整備に対する意識に社会ネットワークが与える影響について述べた。講演時にはより詳しい分析結果を紹介する。

参考文献

１）Putnam, Robert D, Robert Leonardi and Rffaella Y. Nanetti: *Making Democracy Work,* Princeton University Press, 1993.

２）稲葉陽二：ソーシャル・キャピタルの経済的含意―心の外部性とどう向き合うか―，計画行政第２８巻４号, 2005.

３）名古屋市：わたしたちが創る　なごやか地域福祉２００５，名古屋市ホームページ（2006.12.5.現在）